

ターゲット市場は技術革新が進む「AI半導体」「自動運転」「衛星通信」 高い技術力とグローバル体制により、先端技術の実用化に向けた試験需要を獲得

先端技術分野をターゲットに事業成長を目指す

中期経営計画「PROGRESSIVE PLUS 2027」（2025～2027年度）では、これまで当社業績をけん引してきたEV・バッテリー向け投資は減少すると想定し、この落ち込み分をカバーするために先端技術分野である「AI半導体」「自動運転」「衛星通信」をターゲット市場と定めています。AI半導体や衛星通信は「社会インフラ」、自動運転は「人命」に関わることから、品質確保のために様々な試験が必要であり、当社の事業機会がさらに広がると考えています。これら先端技術分野の実用化に向けた信頼性、安全性、耐久性などの品質確保に貢献してまいります。

2025年度はAI半導体、衛星通信分野が好調

2025年度のターゲット市場の受注高は前年度比で約50%増加しました。そのうち、「AI半導体」が56%を占め、日本・東南アジアにて電子部品や半導体向けの試験需要が堅調に推移しました。加えて、台湾にてAIサーバー関連の受注を獲得したことにより約1.3倍となりました。「衛星通信」は40%を占め、北米にて小型人工衛星向け検査用試験装置の一括案件を獲得し、約2.5倍となりました。「自動運転」は大きな動きはありませんが、有望な市場であると認識しています。引き続き、高い技術力を活かした多彩な製品群とカスタム対応力、グローバル体制により市場を開拓し、需要を獲得していきます。



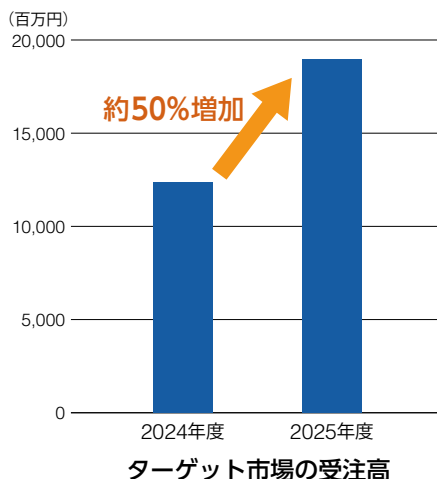
AI半導体



自動運転



衛星通信



2025年度好調に推移した「AI半導体」と「衛星通信」について、試験対象と提供製品を紹介します。

■ AI半導体分野

生成AIが社会に広まるなか、データ通信の大容量化・高速化やAI半導体の高性能化・高集積化などにより、「AIサーバー」やサーバーを構成する「半導体・ストレージ」「電子部品」「電子材料」の開発が活発化しています。これらは、社会インフラとして高い信頼性が求められており、メーカー各社より耐久性評価や電気的特性評価、材料特性評価などの試験需要が高まっています。このような需要にお応えするため、AIサーバー向けに新たに開発した恒温恒湿室(P.5にて紹介)や、急速温度変化チャンバー、計測評価システムなどを提供しています。

AI サーバー

半導体・ストレージ
GPU・メモリ・ロジック

電子部品
コンデンサ・半導体基板・電源

電子材料
基板材料・絶縁材料



急速温度変化チャンバー



計測評価システム

■ 衛星通信分野

主に米国の民間衛星通信の分野をターゲットとしています。衛星通信はデジタル格差の解消や災害時などの緊急時の通信インフラを支える重要な手段として位置づけられています。過酷な環境下においても確実に動作できるよう、「低軌道衛星 (LEO)」や、電源装置などの「人工衛星搭載機器」、半導体などの「人工衛星搭載部品」の耐久性評価の試験需要が高まっています。北米のグループ会社 ESPEC NORTH AMERICA が手掛ける HALT/HASS 試験装置や恒圧恒温恒湿器などを提供しています。

人工衛星 低軌道衛星 (LEO)

人工衛星搭載機器
電源装置・通信機器・姿勢制御

人工衛星搭載部品
半導体・太陽光パネル・電池



HALT/HASS試験装置



恒圧恒温恒湿器